

本マニュアルは初めてBRIDGE LIVEの取扱いを行う事を想定し作成しています。
取扱い前にご確認の上、ご準備をお願いいたします。

BRIDGE LIVEとHELO Plus の違い:

- **Bridge Live:** 大規模/プロフェッショナルな制作向けで、ビデオストリーミングとネットワークの知見が一定程度あることを想定しています。
- **HELO Plus:** 小規模な制作やビデオ技術の初心者向けを想定しています。

主要機能

- **入出力:** SDI (1.5G/3G/12G)、IP (SRT/ NDI /RTMP (S))
 - 拠点間もしくはクラウドへの素材伝送、CDNへの伝送等
- **エンコーダ:**
 - **プロトコル:** SRT, UDP,HLS、 RTP,RTMP/S (出力)
MPEG-TS,RTMP,NDI,HLS (入力)
 - **ビデオコーデック:** H264, H265
JPEG XS (TR-07) * ,JPEG2000 * (* 要オプション)
 - **オーディオエンコーダ:** AAC, AES (非圧縮), AC3

ワークフロー例

- ・ リモートプロダクション
- ・ コンテンツのコントリビューション
- ・ ライブイベントの配信
- ・ OTT向けにABRラダープロファイル付きで受け渡し

同梱物

BRIDGE LIVE貸出機セットには、以下が同梱されています。

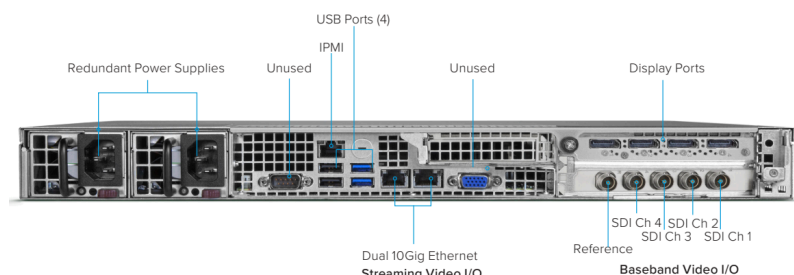
- ・ BRIDGE LIVE 本体
- ・ 電源ケーブル x 2本
- ・ 本セットアップガイド

<ご留意点>

キーボード/マウス (初期設定用)、ディスプレイ表示用のモニター/ケーブル
はお客様にてご用意をお願いいたします。

物理配線

本体とモニター (DisplayPort) 、キーボード、マウスの接続をお願い



動作環境

- 温度：5～35℃
- 湿度：80～90% 結露なき事

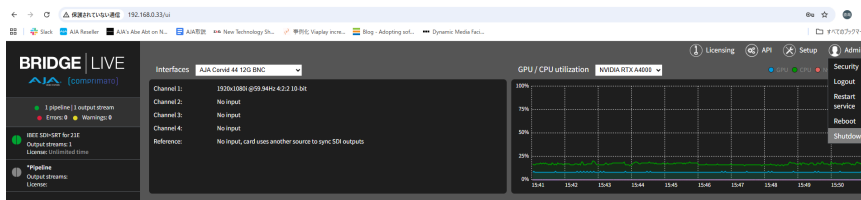
起動

前面右上の物理電源ボタン押下にて起動します。



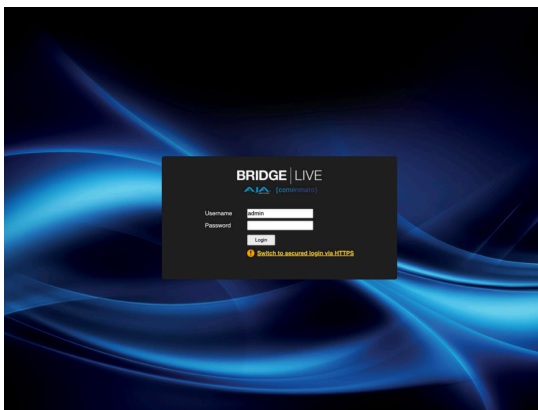
シャットダウン・リポート操作

画面右上、Adminをクリック、Shutdown/Rebootをクリックします。



初期ログイン

起動後、ディスプレイ上に以下画面が表示されます。

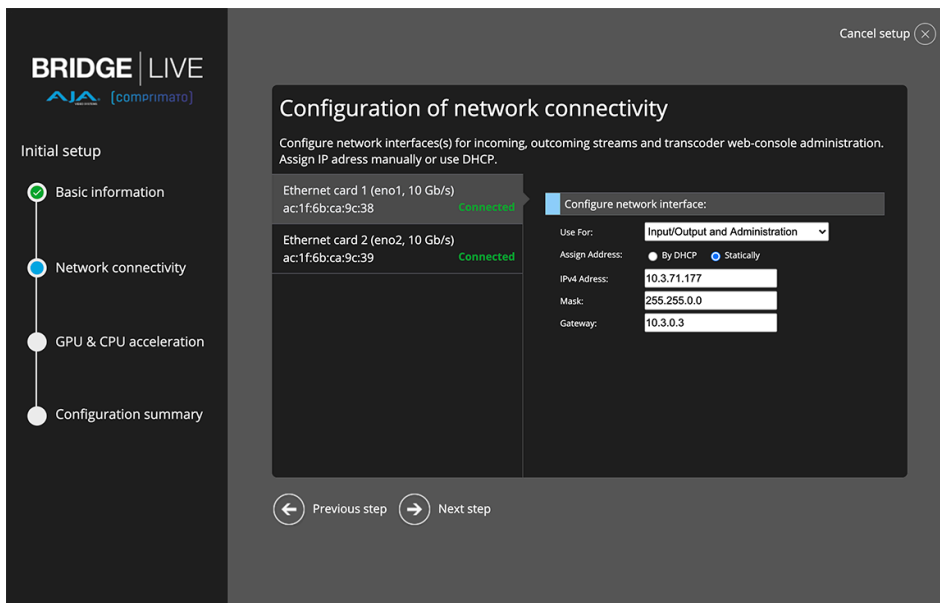


キーボード（マウス）で以下情報の入力をお願いします。

- username admin
- PW blve00008

初期セットアップ

画面右上Setupをクリックすると以下IPアドレスを設定する画面に推移します。
2つのLANポートの役割を設定します。



- **Administration**

当該ポートを制御ポートとして利用する際に選択します。
その後、**Statically**を選択後、IPアドレスの設定を行なうと当該IPアドレスでウェブGUIより詳細設定が可能となります

- **Input/Output**

ストリームの入出力で利用する際に選択します

- **Input/Output and Administration**

制御ポート兼ストリームの入出力で利用する際に選択します

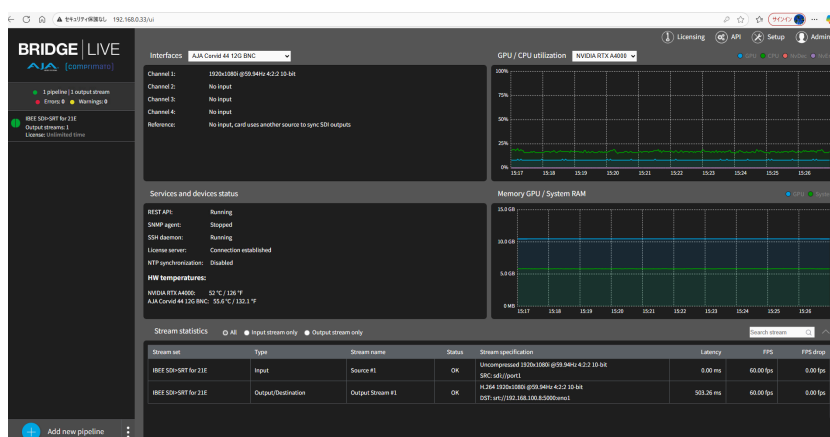
- **Don't use**

ポートを利用しない時に選択します

【ご留意点】 Administrationが2つのポートに設定されないようご留意下さい。

モニタリング画面

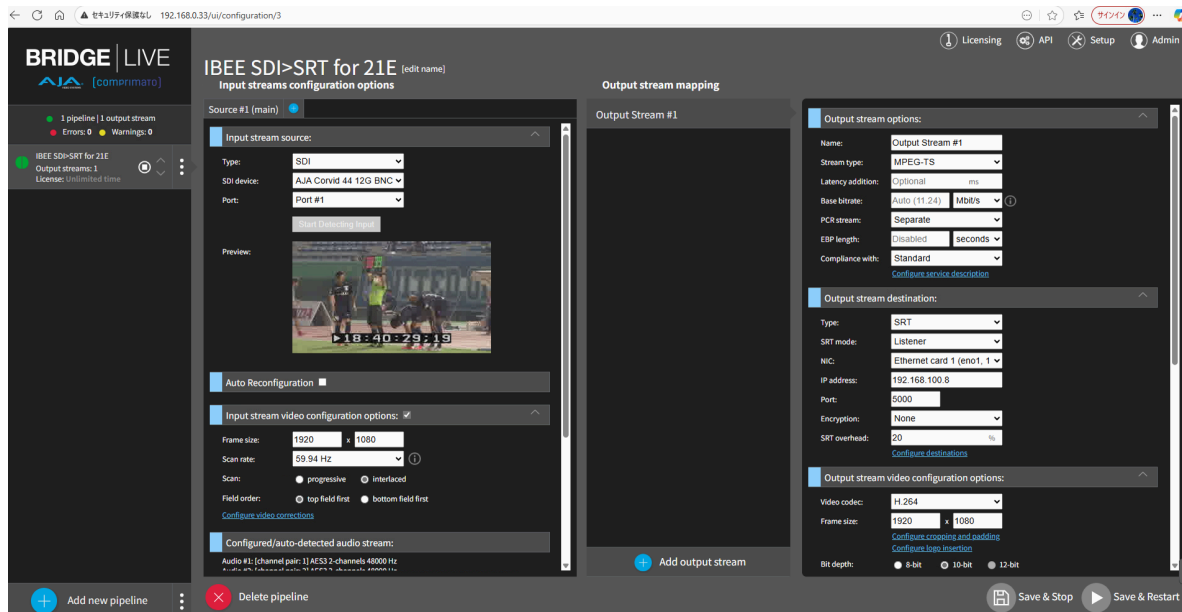
以下画面にて各ネットワークインターフェースの状態確認、GPU/CPU使用率メモリ/システムRAM使用率の確認が可能です。画面下部では内部処理の遅延量の確認が可能です。



【TIPS】 フレーム落ちが高い頻度で発生する際
CPU/GPUの使用率が100%近くで推移していないかご確認をお願いします。

設定画面

画面左下+ボタンを押下、Pipeline作成を開始します。



入力ソースを画面左側 (Input streams configuration options)
出力フィードを画面右側 (Output stream mapping) で設定します。

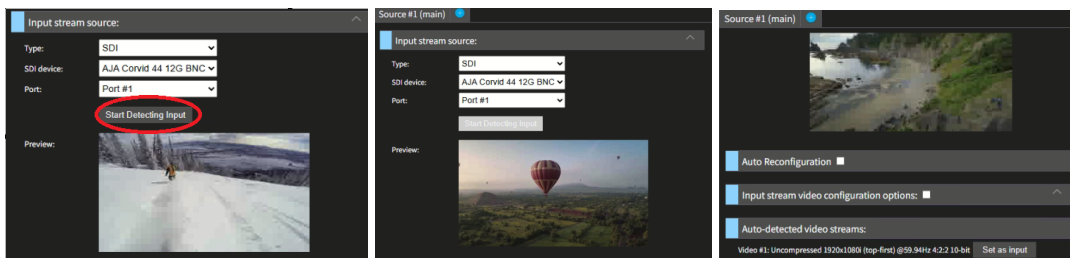
■Video設定

Input streams configuration options

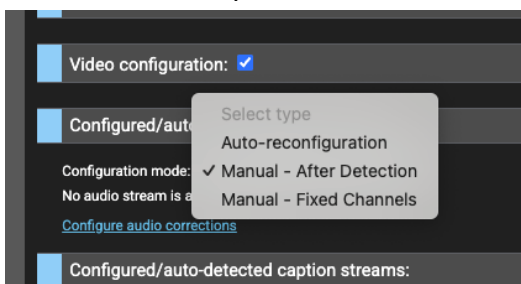
- Typeよりソースの種別を選択します (SDI,SRT,NDI等)
- インターフェースを選択します
 - SDIソースの場合、利用するポート番号を設定をします。
 - ソースがIPの場合、適切なNICポートを選択します。

【TIPS】 Input stream source設定方法

- Start Detecting Inputボタンを押下すると、入力ソースを検知します。



- その後、Set as input釦を押下するとソースの設定が反映されます。



■Audio

入カストリームを検知が可能です

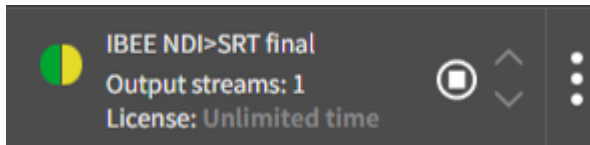
SRT設定

【SRT送受信の要件】

送信側と受信側でIPアドレス/ホスト名について名前解決できる事が要件となります。
トラブル回避の為、デモ・検証実施前にご確認をお願いいたします。

<備考>

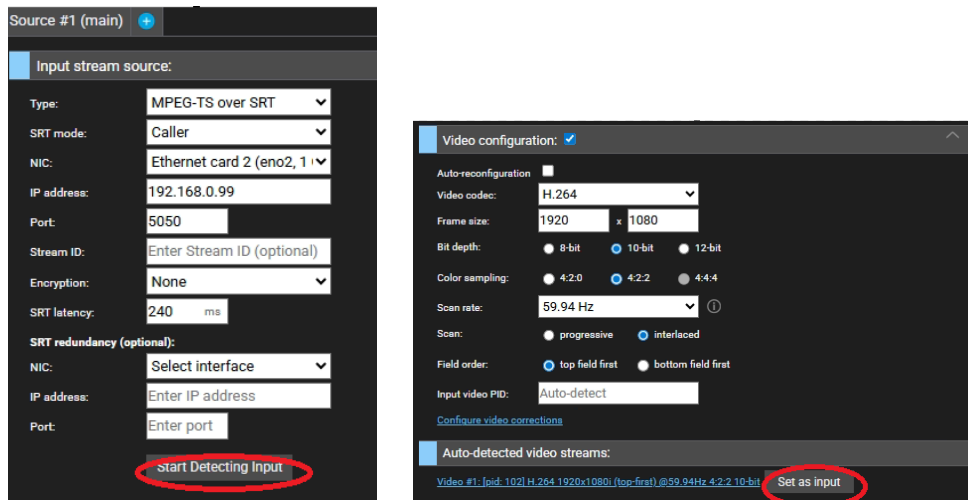
以下はSRTの受信先が適切にストリームを受信できていない際の表示例となります。



Input stream source欄

以下設定を行ないます。

SRT modeでCaller / Listner、IP address、Port、SRT Buffer（デフォルト値：240）
その後、Start Detecting Input釦を押下するとソースを検知され、
Set as Input釦を押下するとソースの設定が自動的に反映されます。



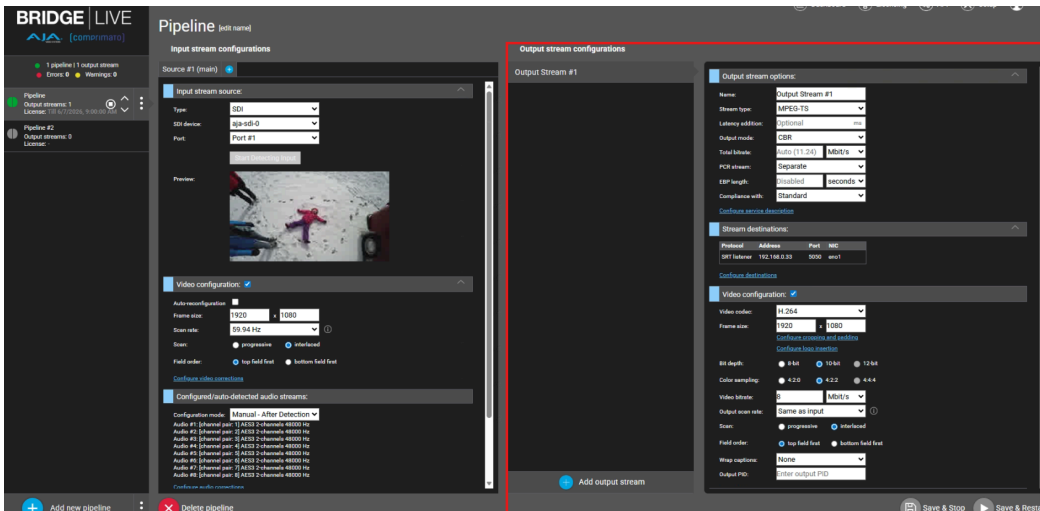
SDI設定

(Stream) TypeよりSDI、SDI Deviceよりaja-sdi-0、PortよりPort番号。
Stream Video configuration箇所にて、ソース/ストリームの設定を行ないます。

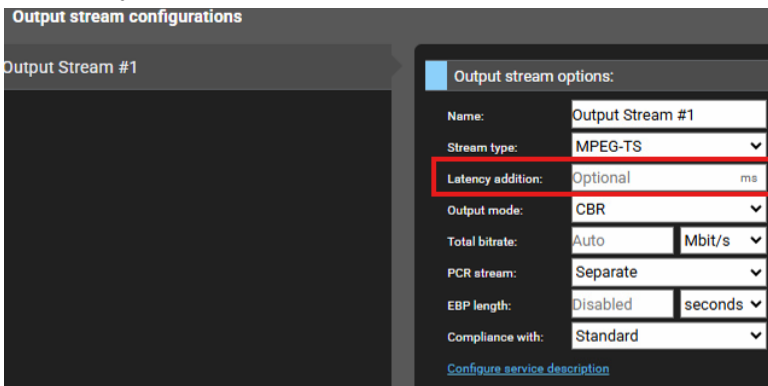
NDI設定

BRIDGE LIVEで検知されたNDIストリームを選択します。

画面右箇所（Output stream configurations）で出力ストリームの設定を行ないます。



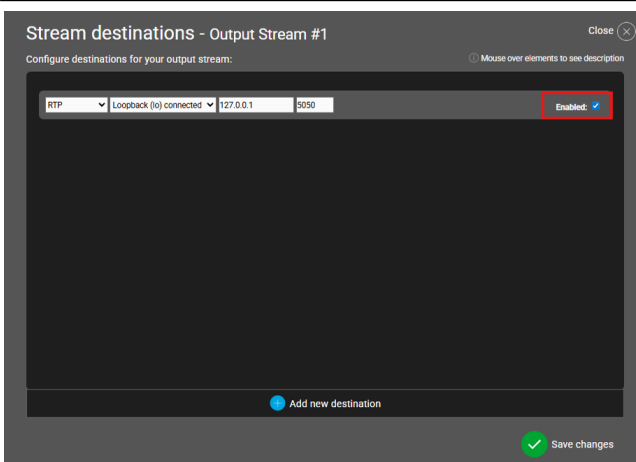
Output Stream options :
Stream type欄より適切なフォーマットを選択します。



NEW Latency addition欄より必要に応じ、Latencyの付加が可能となりました（v1.18～）

Stream destinations:

Configure destinations箇所を押下、以下画面で必要設定を反映後、**Enableにチェックが入るとデコード処理が開始されます。Enableにチェックが入っている事をご確認下さい。**

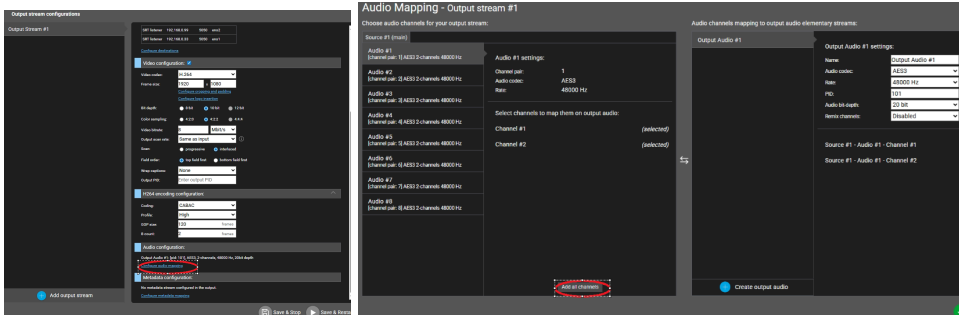


video configuration options

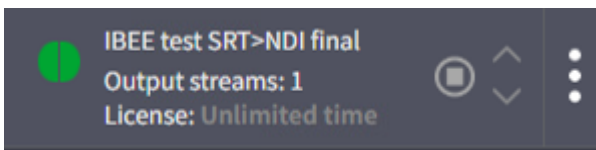
Video Codec,Frame size, bit depth, colorsampling, Video bitrate, Outputscan rate, Scan, Field order等、必要設定を行ないます。

<Audio設定>

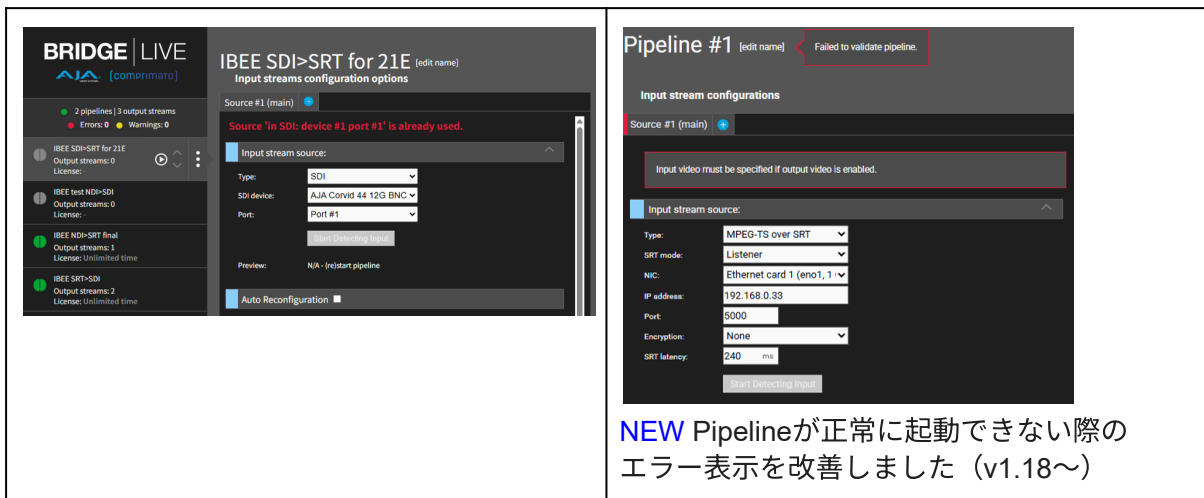
Output stream audio Configuration option箇所、Configure audio mapping をクリック、以下Audio Mapping画面で設定を行ないます。



設定完了後、画面右下Save & Restartボタンを押下Pipelineを起動します。設定が正常な場合、Pipelineが黄緑色に変わります。



設定に異常がある場合、エラー箇所が赤表示されます。エラー内容のご確認をお願いします。

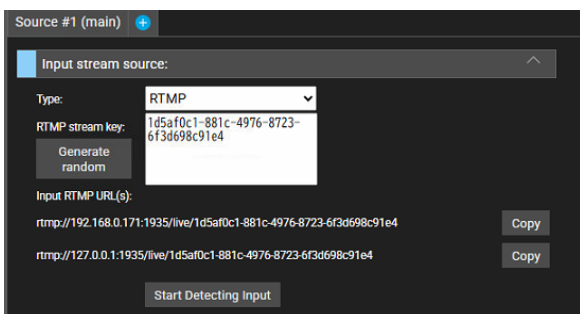


出力設定を変更すると原則Pipelineの再起動が必要でした (~1.18)

NEW Outputstream optionでSRT・TS設定時、各種設定を追加・変更に伴うPipelineの再起動不要となりました。(v1.18~)

RTMP(S)設定

●RTMP入力



- 1.Generate random釦を押下します。
- 2.その後、COPY釦を押下しRTMPのURL+ストリームキーをCOPYします。
- 3.当該の情報をRTMP送信元に設定する事でRTMPでの送受信が可能となります。

●RTMP (S) 出力

Youtube配信を例にしたご説明はBRIDGE LIVEマニュアル Chapter5 Interoprabilityに記載されていますのでご参照下さい。Youtubeを想定した奨励設定については以下ご参考下さい。

<https://support.google.com/youtube/answer/2853702>

BRIDGE LIVEよくあるお問い合わせ例 (新規導入時):

- 1.「Auto Reconfiguration」が有効: 入力信号形式の変更時に自動で調整を試みる機能です。オーディオマッピングがロックされたり、不適切なルーティングになることがあります



- 2.SDIオーディオがAC3に設定されている: AC3はSDI機器でほとんどサポートされておらず、ホワイトノイズの原因となる事があります。AES3 (非圧縮) に変更をお願いします。

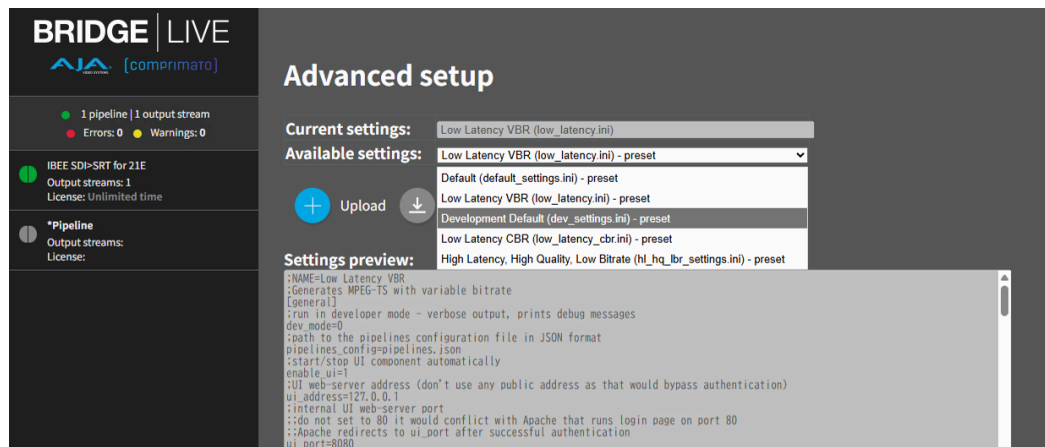
- 3.ネットワーク設定の誤り: 物理的に切断されているNICがDHCPに設定されているとエラーが発生します。「Don't use」に設定することで解決します。

詳細設定 (Advanced setup)

エンコーダーパラメータを微調整できるテキストベースの設定ファイルです。

組み込みプリセット: Default, Low Latency VBR, Low Latency CBR, High Latency, High

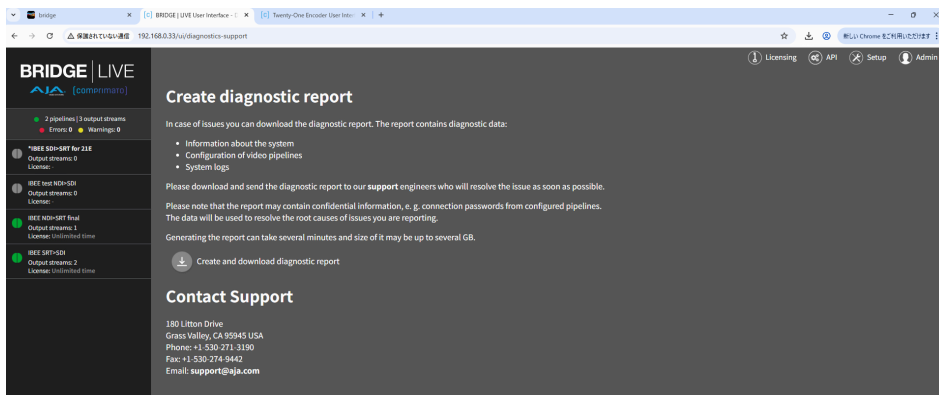
Quality, Low Bitrateより選択が可能です。新たに設定を適用するには、BRIDGE LIVE ソフトウェアの再起動が必要です。



■有事の際の対応

画面右上、Diagnostic&Supportをクリックすると、以下の画面に推移します。

Create and download diagnostic reportをクリック、ログファイルが生成されます。



改定履歴

2025年12月4日	input stream設定方法（Tips）追加
2025年12月5日	新機能（v1.18）を反映
2025年12月24日	HELO Plusとの差異追加
2026年2月3日	v1.18.2追加
2026年2月17日	問い合わせ先を更新